

# 「社員学会を対象とした人材育成と活用の実態調査 (APN グランドデザインに向けたエビデンス集積のために)」

## 協力をお願い

2022年4月1日

JANA 理事長 萱間真美

高度実践看護師制度推進担当理事 酒井郁子

### ● 調査の必要性および意義

#### ➤ 背景

WHOは2010年に世界のヘルスケアニーズの変化に対応するために、保健人材教育の戦略として、健康関連専門職の教育の高度化および専門職連携教育の強化の必要性を報告しました。高齢社会の進展も相まって2013年から2017年の間に多くの国で看護師の裁量権に関する法的規制緩和と改正により、高度実践看護師制度が導入されてきました。また2020年には世界看護師協会(ICN)から高度実践看護ガイドライン改訂版が発表されています。

#### ➤ 論点整理

2011年に、日本学術会議看護分科会から「高度実践看護師制度の確立に向けてーグローバルスタンダードからの提言」が出され、グローバルスタンダードを念頭に置いた高度実践看護師制度の創設、適切な認証制度の確立、医療行為の規制緩和によるチーム医療の推進の3点が提言されました。この提言実現にむけた解決課題として、日本の高度実践看護師の定義と能力に関する合意形成、教育基準の確定と認証制度の運用、高度実践看護師が働く場での業務基準・手順の確立、裁量権に関する法的規制緩和に向けた取り組みの4点が提示されました。

2022年3月現在、ICNの高度実践看護ガイドライン2020と照らし合わせた日本の現状は以下のように要約されます。

高度実践看護師である専門看護師(以下CNS)についてはほぼグローバルスタンダードに準ずる教育内容と認定制度を有し、現在3,000人程度のCNSが現場で活動しています。欧米型ナースプラクティショナー(以下NP欧米型)については養成の枠組み合意の途上にあります。

一方、認定看護師教育課程は、現在2020年度より新たな認定看護分野となり、特定行為研修が組み込まれました。認定看護師は現在約22,000人です。特定行為研修制度は2015年に開始され、厚生労働省の指定研修機関に登録されている人数は2021年9月時点で約4,400人です。

また、看護の専門性を向上させ、国民の健康向上に資することを目的として、看護系学会等が認定する資格は数多くありますが、育成・修了人数、資格認定のための研修プログラムの内容などは看護系学会協議会において共有されていません。

#### ➤ 高度実践看護師制度推進のための課題

現状を整理し、今後の高度実践看護について看護界として合意可能な一つの大きな絵(Big picture)を描くためには、看護系学会の協議の場である本会において、社員学会の人材育成と活用の実態、学会が認識している課題及び今後の方向性を調査することが必要と考えます。その調査結果を共有したうえで建設的な対話を行うことにより、高度実践看護制度の発展を目指した戦略を練ることが課題です。

- 調査の目的

本会では、将来構想プロジェクトによる以上の論点整理と課題抽出から、本調査の目的は、認証されている教育課程修了者ならびに学会認定資格取得者、研修プログラム修了者の育成および活動に関する実態、学会が認識している人材育成活用に関する課題および今後の方向性を明らかにし、JANA 社員学会および関連する会議において、共有することを目的に、下記の要領で調査を行うことといたしました。

- 調査対象 2022 年 4 月 1 日時点での日本看護系学会協議会社員学会

- 調査期間 2022 年 4 月 1 日から 30 日

- 調査方法 Web アンケート（サーベイモンキー）

- 調査内容

別添資料 1 を参照してください

- 分析方法

単純集計および自由記述の内容集計を行います。また本調査は記名式で行います。記入者のお名前は秘匿しますが、学会名は報告書内で共有します。学会名の公開をしない場合はその旨調査表の中で意思表示をお願いします。

- 公表予定は以下の通りです。

①JANA 会員学会に最終報告書を送付するとともに HP にアップする（2022 年内を目途にする）

②中間報告を 2022 年 5 月 14 日の JANA 情報交換会で行う。

- 別添資料 1 調査内容

- 別添資料 2 用語の説明

以上をご理解いただき、本調査へのご協力を賜りたくお願いいたします。

調査への回答は資料 1 に掲載しているサーベイモンキー URL または QR コードからご入力をお願いいたします。

○サーベイモンキーへの入力が難しい場合は、このワードファイルを使用して入力し、下記までメール添付でお送りください。また不明点等ございます場合も下記メールあてにご連絡ください。

調査担当者 酒井郁子 千葉大学大学院看護学研究科

ikusakai@faculty.chiba-u.jp